

-大地と人にもっとドラマを-

Cultivate the Future



見事に成長したマングローブの前で
記念撮影 ハイリマゴ村の人たち

2002年



1992年

子供が植えた木が育ち、植えた子供も成長した

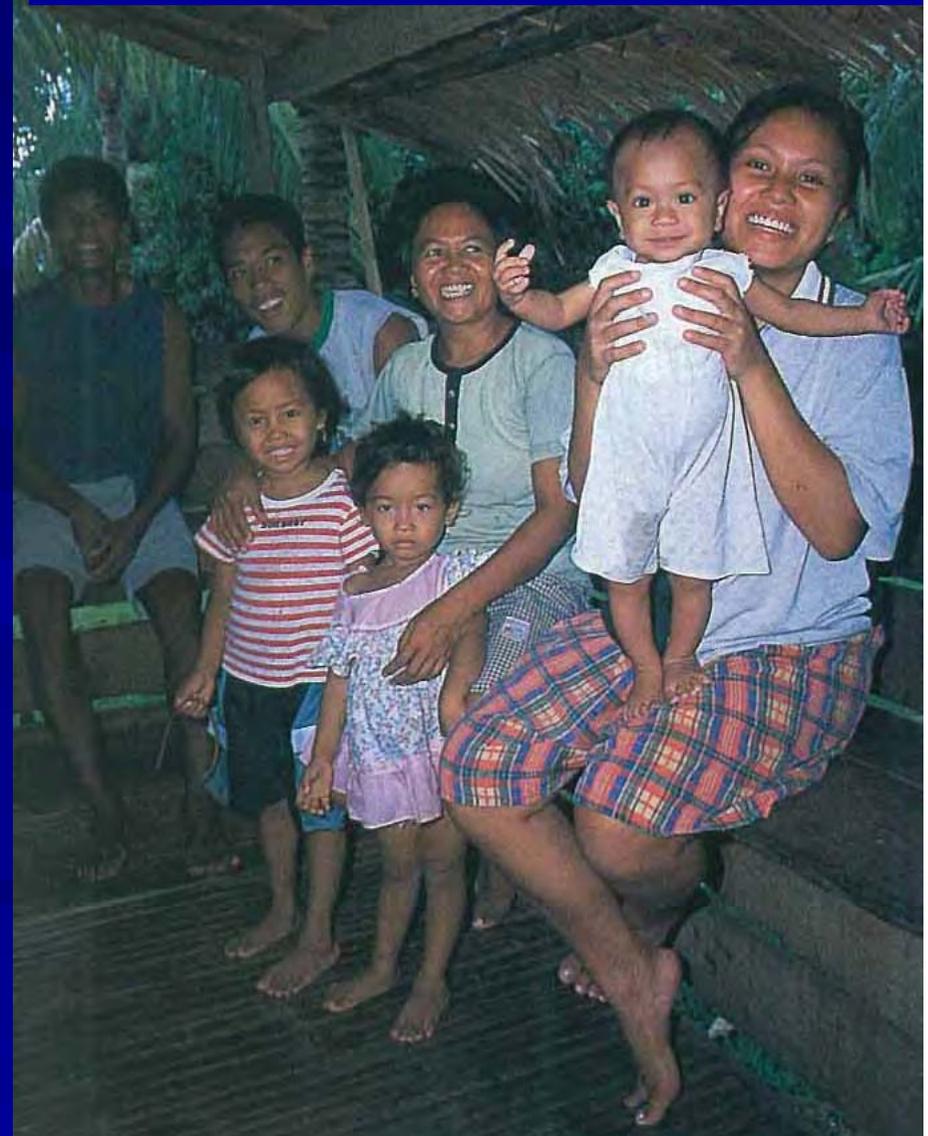


1992年(当時9歳)
チェリーナさん



「子供の森」計画は、こうして確実に未来につながっている

2002年 自宅で生後7ヶ月のアーチー君を抱くチェリーナさん



-大地と人にもっとドラマを-

Cultivate the Future



タイ スリン県 環境キャンプ



「子供の森」計画が各地域独自でひろがりを見せている



オイスカの活動域は大地のあるところすべて

Cultivate the Future

人と自然、人と人との関わり方をデザインし直し、

自然と調和して生きる世界を実現させたい

-大地と人にもっとドラマを-

Cultivate the Future 

Cultivate the Future

-大地と人にもっとドラマを-



これまでの植林実績

- 期間: 1980 ~ 2004年
- 国数: 24か国・地域
- 面積: 約9,093ヘクタール(陸地・海岸線)
(皇居の約80倍)
- 本数: 約2,495万本
- 日本からの植林ボランティア(短期):
約15,000名
- 投入資金: 約35億円

環境保全活動の取組方針・実施体制

- 1 . 自然と調和した社会生活の推進
- 2 . 持続可能な農林水産業の開発協力
- 3 . 環境保全・再生と貧困削減
- 4 . 住民の意識改革 = 環境教育
- 5 . 「ふるさと」づくり

実施主体：帰国研修生及び現地住民

パートナー企業

プロジェクト支援



日本アイ・ビー・エム 「地球環境貢献特別プログラム」として2002年から、社員の **植林ボランティア派遣**を実施。現地の植林管理費を支援するとともに、他企業とのコラボレーションを通じて「子供の森」計画への賛同を呼びかけ。



オルビス 2002年より、山梨「オイスカの森」緑化事業、フィジーでの「子供の森」計画、グローバル「子供の森」基金に支援。「子供の森」計画に支援。社員が国内外での植林ボランティアに参加。



松下電器産業 2002年より、オイスカが山梨で進める学校林活性化の活動に対し、**学校林森林整備費用**を支援。



三井住友銀行 2002年、社員の有志からなるボランティア基金により、インドネシアの小学校での**衛生環境改善**、及び**地域住民の生活向上**を図るプログラムに支援。



味の素 2000年よりインドネシアの「地域開発女性センター」の建設をふくむ**生活環境改善プロジェクト**に支援。



コスモ石油 2001年より途上国における環境貢献活動のひとつ、**熱帯雨林保全プロジェクト**の一環として、バブアニューギニア・ラバウル・エコテック研修センターの活動を支援。



リコー 2001年よりマレーシア・ボルネオ島での**天然林再生プロジェクト**に支援。

FSA(富士通系ソフト会社91社の団体) 設立25周年記念事業として、2000年より3年間でフィリピン・パナイ島の「子供の森」計画に支援。2000年2月に各社の代表によるボランティア派遣を行う。

ホッタ 2000年、創業120周年事業として、「子供の森」計画などを支援。2001年以降も継続支援し、2002年には、ミャンマー研修センター内の**食品加工センター建設**、**OB自立支援プログラム**を支援。

OKI

沖データ 1999年よりフィジーの「子供の森」計画に毎年支援。1999年11月、社員のボランティアを派遣。売上金の一部寄付や、各種イベント会場で募金の呼びかけを実施。

 **東京海上**

東京海上火災保険

「東京海上マングローブ植林プロジェクト」

創立120周年記念事業として、1999年より2003年までアジア諸国に3,000ヘクタールのマングローブ植林を実施。オイスカはフィリピン・インドネシア・タイの3カ国で1,500ヘクタールを担当。社員のボランティア派遣も実施。日本経済新聞、読売新聞、アエラ等で活動をPR。

 **損保ジャパン**

損保ジャパン 1998年、女性代理店「あすなる会」有志の募金でマニラ研修センター近くの**学校建設支援**。

1998年より日米コモンアジェンダの一環で日本野鳥の会、日本環境教育フォーラム、オイスカとインドネシア・ジャワ島にて**環境教育プログラム**を実施。

同社が出展しているインターネット博覧会「エコラシーの森」はこちら



ジャパンエナジー 94年より「**30日間緑のボランティア**」(1ヶ月間アジアの国で植林活動に参加するプログラム / 参加者は大学生)に支援。全国のガソリンスタンドに募集ポスターを掲示。



SANKYO
SEKISUI

三共 1999年、**パプアニューギニアのラバウル・エコテック研修センターの改築費**を支援。

積水化学工業

「フィジー西部緑化プロジェクト」

1997年から1999年までの3年間支援し、社内にてオイスカなどの活動報告会を開催。日本経済新聞一面広告、社内報にてオイスカの活動をPR。

商品の売り上げの一部を寄付



岡藤商事 商品ファンド(「クラスラ・ファンドⅡ」、「ニューウェーブ ファンド」等)の販売手数料の一部を「子供の森」計画に寄付。



グリフィン・インターナショナル 衣料ブランドショップ直営店「FRAME」「FRAME PHYSICAL」の売上げの1%を「子供の森」計画に寄付。



富士ゼロックスオフィスサプライ 1999年、創立20周年記念事業として、オイスカ「子供の森」計画をモデルとした絵本『森のささやき』を企画。絵本の収益と、著者・葉祥明氏への印税の一部を「子供の森」計画に寄付。



高島屋 1998年より全18店舗にて、繰返し利用できる布製買い物袋「エコバック」を200円で販売。全収益をグローバル「子供の森」基金に支援。2001年より「エコバック」をリニューアルして継続支援。

高島屋大阪店 創業100周年にともない、(1)社員食堂にスペシャルメニューを用意、(2)社員にプリクラ利用を勧める。これらの収益をフィリピン・アブラ研修センター内デイケアセンター建設費用に。記念Tシャツ販売収益はグローバル基金に支援。



三愛 衣料のリサイクルショップ「エコカーニバル」を1998年秋オープンし、売上げの一部を「子供の森」計画に支援。